

# M&I

## 仕組み預金賢く利用

## 金融アイテムレビュー

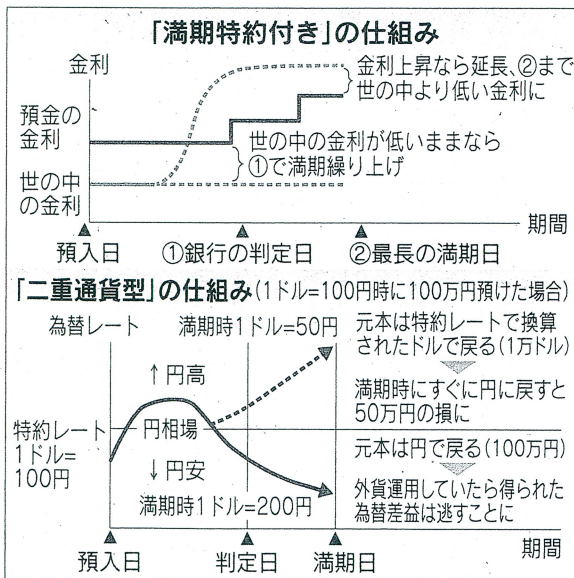
「仕組み預金」と呼ばれる預金の取り扱いが広がっている。通常の円定期預金と比べ金利は高いが、元本が外貨で戻ってきたり、満期が変わったりと注意点も多い。リスクとリターンを見極める必要がある。

仕組み預金はデリバティブ(金融派生商品)の一種のオプション取引を組み込んだ商品なので、普通の定期預金よりも金利が高い。原則として途中解約できない。大別すると、「満期特約付き」と「二重通貨型」の2種類がある。

満期特約付きは、例えば満期10年で「最初の3年は金利0.4%、その後は毎年金利が上昇」など、預入期間が延びると金利も上昇するのが特徴だ。

銀行側が満期を延長するか、繰り上げるかを決める

## 満期延長・外貨返還に注意



権利を持っている。世の中の金利が預金金利の上昇幅より低ければ、満期繰り上げになる可能性が高く、預金者は期待していたほど金利収入を得ることができない。逆に預金金利の上昇幅より高ければ、満期は延長



されるが、預金者にとっては損な運用になる。

二重通貨型は為替動向で元本が外貨になる可能性がある。満期日の数日前の時点で、契約時に設定された為替レート(特約レート)よりも円高ならば外貨、円安ならば円で元本が戻る。

円相場が1ドル100円時に100万円を預け入れた場合を考えてみよう(特約

約レート1ドル=100円)。判定日に特約レートよりも円高だった場合、100万円の元本は特約レートで換算され、1万ドルで戻る。満期日の実勢為替レートが1ドル50円だった場合、すぐに円に戻すと50万円の損をするようになる。

判定日に円安だった場合、元本100万円は円で戻ってくる。満期日に実勢レートが1ドル200円だとすると、外貨で運用していたら得られた為替差益100万円は逃すことになる。

10月半ばから二重通貨型の取り扱いを始めたじぶん銀行では、30歳代女性の申し込みが目立つという。

高金利を背景に人気を集める仕組み預金だが、ファイナンシャルプランナー(FP)の前川貢氏は「預金という名前だが実際は複雑な金融商品。実態をしっかり把握した上で投資を」と話す。